

齋藤茂樹の 北関東巡り



令和5年(2023) 1月18日

7

陶器に魅せられ益子焼の窯元へよく出かけます。長年親しくさせていただいている陶芸家を紹介します。

用の美 益子焼

● 岩下製陶(古窯いわした)岩下哲夫さん

古窯いわしたは、慶応2年創業の窯元で岩下哲夫さんは5代目、ご子息も6代目としてご活躍されています。

伝統的な器のほかに動物の置物も魅力的でNHKからの依頼で陶器の「ななみちゃん」や「どーもくん」を作られたこともあります。

毎年、新作の干支の置物を作られるので楽しみにしています。

とくに難しいと思われる「辰」と、買いたいと思えるような「蛇」をどのように作られるでしょうか。私の音楽活動も応援していただき、指揮をすることになった時には「指揮する干支の動物」の置物をいただきました。



益子焼は江戸時代末期、笠間で修行した大塚啓三郎が窯を築いたことに始まると言われています。以来、優れた陶土を産出すること、大市場東京に近いことから、鉢、水がめ、土瓶など日用の道具の産地として発展をとげています。現在、窯元は約250、陶器店は50店を数えます。若手からベテランまでここに窯を構える陶芸家も多く、その作風は多種多様です。春と秋には陶器市が開かれます。

1924年、濱田庄司がこの地に移住し、「用の美」に着目した柳宗悦らと共に民芸運動を進めるかわら、地元の工人たちに大きな影響を与え、益子焼は芸術品としての側面ももつようになります。



● 陶芸家・宇都宮和男さん

宇都宮和男さんは、個展案内状の宛名を手書きされていることと、初めて拝見させていただいた作品の技術と美しさに魅せられました。また、通常雑草として扱われる「どくだみ」の花を美しく描いた作品があり、その着目点に感銘を受けました。

宇都宮さんは京都で生まれ京都で学ばれましたが益子で築釜されました。



象嵌などの多彩な技法と色使い、さらに他にないデザインで毎回の個展を楽しませていただいています。先日の個展では「ほおずき」の絵が素晴らしかったです。

普段使っている
宇都宮和男さんの作品↓



個展の案内状
「新春の器と癒しの陶額展」↓



● 陶芸家・田中喜一さん

3人目の陶芸家田中喜一さんは、奥様と一緒に合唱団でバッハのマタイ受難曲を6年間歌ったことが縁で、その合唱団が解散した後もご夫妻と親しくさせていただいています。なお奥様は元修道女で、神様の奥様から陶芸家の奥様となりました。喜一さんは美大出身ですが作品は華美なものではなく使いやすさが最大の魅力です。

陶器市の田中喜一さんの
のテント→



←自宅で使用している
田中喜一さんの作品

● 栃木県小山市のギャラリー「たから園 現代工芸」

お茶屋さんとギャラリーをなさっており、絵画、陶器磁器、ほかあらゆる工芸品の個展を開催し展示販売しています。このギャラリーの魅力は個展開催中に陶芸作家とお茶を飲みながらお話しができることと、作品を観ながらのんびりとした時間を過ごすことができることです。

店主の大島さんは気さくでひょうひょうとした感じで気軽に入店出来て落ち着いたギャラリーの雰囲気を楽しませてくださいます。芸術を愛し、作家を大事に応援してくださいます。

宇都宮和男さんも田中喜一さんもこのギャラリーで個展を開催したことがあり、田中喜一さんの時には、私の指揮で合唱のコンサートとその後のお食事会をこのギャラリーで開催させていただきました。

<http://takaraen.com/top4q.html>



〔バックナンバー〕

- 齋藤茂樹の北関東巡り 1
- 齋藤茂樹の北関東巡り 2
- 齋藤茂樹の北関東巡り 3
- 齋藤茂樹の北関東巡り 4
- 齋藤茂樹の北関東巡り 5
- 齋藤茂樹の北関東巡り 6

Back

「齋藤茂樹の北関東巡り」TOPへ戻る

Home

「ホームページ」表紙へ戻る